

まえがき

私にとって氣・エネルギーを理解することは、人を笑顔にするためのものである。

人生80年と言われてきた寿命も近年、100歳に近い時代を迎えている。医学の進歩とともに、医療が進歩して長生きができるようになってきた。しかし、病院に行かずに健康寿命まで元気で過ごしている方はどれだけののだろうか。

この数年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって社会全体の様相が変わった。人々の心の中には不安や恐怖に苛まれ、世界全体が当たり前の生活すら送れずに我慢や忍耐を強いられてきている。2017年4月29日の朝から、言葉やビジョンを受け取るようになり7年目に入った。私の魂の友との再会である。受け取る内容は健康とは、どういう状態をいうのかという内容ばかりであった。現在のスピリチュアルの世界で伝えられているようなものではなく、すべてをエネルギーの体感により見極め理解していく。一切、ブレることもなく一貫し現実味がある。

宇宙は全陰陽説で理解でき、エネルギーは陽のエネルギーと陰のエネルギー二つで成り立っている。こ

の二つのエネルギーのバランスでできているのが宇宙であり、宇宙と魂の世界もまた陰陽の関係にある。東洋医学の中には『中庸』という言葉がある。陰と陽のバランスを5対5のようにとることで肉体も精神・心も安心して穏やかに生きていける。すべてはバランスなのである。

古い時代から生き方を伝える者は地上に生まれ、その使命を果たすべき役割を担ってきた。イエス・キリスト、釈迦などがそうである。教えは一つであっても、伝える者の理解によりさまざまな方向へ枝分かれし数えきれない宗教団体が存在するようになった。

私は、『教祖を得るような華々しい宗教は終わらせること』と『頭に立つたらあかん』と言われてきた。宗教は魂の世界を説くものではなく、人間としてどう生きることが心の豊かさを育んでいけるのかを説くためのものである。

エネルギーの体感を部分的から全身へと広がっていくなかで理解したのは、笑顔で健康で生きたいのなら肉体のエネルギーと魂のエネルギーを結び、心とのバランスを取ることであった。

エネルギーの見極めをすることを、私は『エネルギーの審神者』と表現している。エネルギーの審神者をする対象は、人間界だけではなく魂の世界・亡くなった魂も含む。地上でいえば土地や建物、地震を起こす場所、台風や低気圧、人間、ペットのエネルギーなどである。魂の世界でいえば、亡くなった

あとの魂の状態や魂のエネルギーを波動という言葉からどう理解するかなどを指す。東洋医学から見れば、氣の流れ・経絡けいらくの体感から滞る箇所を知り肉体の状態をどう理解するかを指す。

氣を肉体で体感する人間を経絡人間というのだと当時、教えてくれたのは鍼灸師の私の子どもであった。東洋医学から理解できることを聞くたびに教えてくれている。一人の人間の経絡を理解するのに施術する側と氣の流れを体感する側との答えは一致することのほうが多く、私自身に確信を持たせてくれている。

魂の友は、私を導き教育をしてくれた。現在は私と歩み、まだ視ぬ世界とともに昇りつづけている。当初、私に『笑顔のもととなれ』という道標を伝えてきている。東洋医学では経絡人間と表現されているが、私は絶対氣感を持つ霊媒師である。

笑顔で健康で生きるとは、エネルギーの体感から何をどう理解し実践していけばいいのか。魂の友からの言葉や体感で得てきた理解を通してみなさんに伝えていきたいという想いを、こうした形で現実に実らせていただくことになった。

本書をお読みいただいたみなさまが、この本を読み終えるころに肉体も心も軽くなり魂の存在として

さらに光り輝き、みなさまの大切な方々とともに笑顔で幸せに過ごしてほしい。それがこの本に込めた私からのメッセージとエネルギーである。